



⑬〔江戸宿より年始挨拶〕

ぶんきゅう

文久4年(1864)正月

原本：縦 15.9cm×横 21.0 cm

江戸の神田小柳町にある百姓宿（江戸宿）伊勢屋伝次郎が、関東周辺のお得意様に送った木版の新年の挨拶状です。上州から盛んに江戸へ出訴していたことがうかがえます。

みかわまんざい

色刷りの挿絵は、三河万歳が描かれています。三河地方を中心とした芸能で、初春に太夫（絵右）と才蔵（絵左）が家々を廻って祝い言（ごと）を述べる祝福芸です。

絵をよく見ると、その年の大（30日）の月（三・五・七・八・九・十一月）と小（29日）の月（正・二・四・六・十・十二月）が書き込まれています。見つけてみてください。



藤岡市譲原 山田松雄家文書

P 8 2 1 7 ・ No. 2 1 6 8 - 1 0 - 1

【⑬】〔江戸宿より年始挨拶〕

〔釈文〕

文久四年
甲子

【三河万歳の大小絵、省略】

新春の御慶、目出度申納候、

万寿／＼御機嫌能被遊御越年

恐悦奉存候、先者年始之御祝儀

申上度、如レ此御座候、恐惶謹言

御百姓宿

正月二日

伊勢屋

伝次郎

猶々御出府之節、不_二相変_一御最肩被_二成下_一、御最寄御懇意様方へ宜敷御風聴、御推挙之程奉_二願上_一候、以上

（藤岡市譲原 山田松雄家文書

P 8 2 1 7 ・ No. 2 1 6 8 - 1 0 - 1